

自立支援介護でADL向上

介護付きホーム27棟目

アスパートナース（東京都千代田区）は、27棟目となる介護付きホーム「アズハイム神宮の杜」を2023年12月に開設した。同施設より新たに、自立に向けた水分摂取や食事、運動、排泄の介護を重点的に行い、入居者の生活の質向上の取り組みに注力する。

アスパートナース

四ツ谷駅から徒歩9分と、明治神宮の近隣に位置する。月額利用料は入居一時金0円の場台、敷金60万円、月額利用料54万4550円。23年は同社の設立から20期目で、ブランド力向上のため都心部に高価格帯ホームを複数開設していた。独自の自立支援介護を行う社会福祉法人正吉福祉会の齊藤貴也氏のケア手法を採用。▽1日1500ミリリットルの水分補給▽1日1500kcalの栄養摂取▽生活リハビリを中心の歩行訓練▽おむ

つゼロを目指したトイレでの排泄——の4点を実施する。

以前から、運動においては各ホームに機能訓練指導員を配置するなどして生活リハを取り入れていた。そのほか3項目は同社として初の取り組みとなる。食事では、食に対する意欲向上のため、夕食の献立の主菜を2種類から選べる制度も導入した。

また、ADLの低下しがちな入居後3ヵ月間に集中的なケアを行う。日常生活の質を改善し、「入居者がホームと自宅を行き来できる状態にしたい」と山本皇自取締役は語った。



▲明治神宮に近いことから和風の内装を取り入れた

幅広い症状対応 選べる訪問医

同社の他施設と同様、複数の訪問診療所と提携し、内科医・歯科医ともに2ヵ所から選択できる。内科は、精神科や皮膚科などの

専門医が所属するクリニックと連携。幅広い症状に対応できる体制とし、それぞれの入居者に適した医療ケアを提供していく。

内科医の月2回の診察には薬剤師が同行する。同社は19年より、多剤投与による弊害（ポリファーマシー）防止の取り組みを実施。アズハイムの他拠点では、併用薬剤数が5・2剤、平均入院率2・2%と19年以前から減少した。

1日の平均服薬回数も減少。多くの入居者で、朝・昼・夕・就前に服薬していたものを、朝・夕の2回に縮小した。「介護職の負担軽減や、誤った薬剤を投与してしまう事故

の減少にもつながる」（シニア事業部看護アドバイザー 石川渚氏）